

平成29年度 土曜日の教育支援活動一覧

3市1町38教室

市町名	教室数	活動名	主な実施場所	委託	委託団体名
甲賀市	10	地域で創る 土曜日「夢の学習」(親子講座)	水口中央公民館		
		地域で創る 土曜日「夢の学習」(子ども講座)	水口中央公民館		
		親子ふれあい講座	土山中央公民館・土山開発センター		
		子ども公民館講座	土山中央公民館他		
		天体観望会	かふか生涯学習館		
		KOKA楽子ども公民館	かふか生涯学習館		
		親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		
		こども体験講座	甲南公民館		
		親子講座	黄瀬宮農組合 たけのこ児童館		
		子ども体験講座“おどりのおけいこ”	信楽中央公民館		
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校		
		岩根小土曜教室	岩根まちづくりセンター		
		土曜日教室	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター		
		あすなるこの土曜事業	菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター		
		さんさん教室	夏見公民館・柑子袋まちづくりセンター・吉永公民館		
		東っ子教室	三雲児童館・三雲まちづくりセンター		
		しもしょう土曜教室	下田小学校・下田まちづくりセンター		
		水戸っ子学ぶ力アップ！教室	水戸小学校		
東近江市	13	蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(初級)	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(中級)	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(上級)	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 囲碁・将棋クラブ	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生地区を主とした滋賀県内のフィールド		
		玉緒キッズダンス ダンスクラブ(初級)	玉緒小学校		玉緒地区 地域教育協議会
		玉緒キッズダンス ダンスクラブ(中級)	玉緒小学校		
		OH！茶チャチャクラブ	てんびんの里文化学習センター		五箇荘地区 地域教育協議会
竜王町	6	竜王キッズクラブ 和太鼓クラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王町公民館 竜王町農村女性の家		
		竜王ユースプラス(吹奏楽教室)	竜王町公民館 他		
計	38				

甲賀市における土曜日の教育支援活動の取組

■目指す姿

児童に対し、生涯学習を通じて社会生活のルールや社会性を身に付け、正義感や倫理観、思いやり、自他の命を大切に作る心などの豊かな人間性を育み、豊かな社会の実現を目指す。

■本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

また、担当職員を対象に企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

学校から「小学校の授業で昔遊びを教えてください人を教えてほしい」と公民館に依頼があり、公民館職員が地域ボランティアに声を掛け、学校まで教えに行くところまでつなぐことができた。

○課題

子どもを対象とした講座のため開催日が週休日となることから、先生に支援を依頼するのに難しい面がある。

■地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

○成果

どこにでもある、地域で子どもを育てる風土を、地域の人材や団体と連携することにより維持することができた。

○課題

学校連携と重複するが、週休日の依頼は難しい面がある。地域の祭事や企業CSR活動の情報収集が重要となるが、限られた人員では難しい。

■その他

政策の違いにより、よく似た事業をそれぞれの部署が取り組んでいる現状がある。そのような現状を踏まえ、俯瞰的な視点を持つ「地域学校協働本部」の設立やコーディネート機能を有する地域学校協働活動推進員委嘱に向けた制度設計を進めていく。

甲賀市水口町における夢の学習の取組（親子講座）

甲賀市水口町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 地域で創る 土曜日「夢の学習」(親子講座) (対象学校名：伴谷、柏木、貴生川、綾野、水口、 伴谷東小学校)		平均スタッフ数	10 人
主な活動場所 水口中央公民館		子どもの平均参加人数	20 人
年間開催日数	45 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容 ■補習的学習 ■スポーツ ■文化・芸術 □科学・実験 ■体験活動 □郷土学習 □その他 ()			

■ 活動の概要

体験活動をおしてさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

- ・親子囲碁教室
- ・親子将棋教室
- ・親子料理教室
- ・親子バレーボール教室
- ・親子野球教室など

■ 特徴的な活動

学習の積上げとして、これまで夢の学習で学んだハーモニカなどを親子料理教室の場で発表していただいたことにより、参加していた親子や参加者同士をうまく結びつけることができた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

各講座とも、地域や民間企業等のボランティアスタッフ等が楽しみながら活動できている。経験豊富な指導者によるコーディネートのもと、地域の方が様々な体験をする中で、一度にたくさん子どもたちとふれあうことが生きがいになっているとの声があり、貴重な場となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

学びを核とした家庭教育力の向上を目指し、子どもが求める学びを通じて親子が触れ合い、心地よい居場所として機能するよう工夫している。講師に対し、学びの内容を高度なものにせず、力を合わせて達成できる内容でお願いしている。

■ 事業の成果

保護者の方にとって、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場となっている。

■ 事業実施上の課題

学校を通じて講座のお知らせをして、たくさんの親子が参加されているが、まだまだこの講座をご存じない保護者もおられる。ボランティアスタッフの人数が、まだまだ不足している。もっとたくさんの方にかかわってもらう必要がある。

■ その他

屋外開催事業は、天候等に左右されるので、雨天時等の振替え事業等の計画・検討が必要となる。



【親子料理教室】

甲賀市水口町における夢の学習の取組（子ども講座）

甲賀市水口町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 地域で創る 土曜日「夢の学習」(子ども講座) (対象学校名：伴谷、柏木、貴生川、綾野、水口、 伴谷東小学校)		平均スタッフ数	10 人
主な活動場所 水口中央公民館		子どもの平均参加人数	20 人
年間開催日数	45 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容 ■補習的学習 ■スポーツ ■文化・芸術 □科学・実験 ■体験活動 □郷土学習 □その他 ()			

■ 活動の概要

体験活動をととしてさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

- ・算数教室
- ・英会話教室
- ・けん玉教室
- ・百人一首に挑戦
- ・さつまいもの栽培など

■ 特徴的な活動

けん玉教室で学んだ児童が、今度は講師となって学びを提供する側に回ってもらい、学びが広がるよう働きかけを行った。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

各講座とも、地域や民間企業等のボランティアスタッフ等が楽しみながら活動できており、経験豊富な指導者によるコーディネートのもと、地域の方が様々な体験をする中で、一度にたくさん子どもたちとふれあえる貴重な場となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

休日の過ごし方の選択肢を増やし、子どもが好きな学びを選択しつつ、それをきっかけとして新たな学びの意欲につなげる。具体的事例について、参加者のアンケートから、好きな学びと自らが抱える課題を分析し、求められる地域の人材発掘に努めている。

■ 事業の成果

各講座とも、実際に体験する中で物事に対する好奇心や最後まで自分でやりきる自主性を育むことができた。

■ 事業実施上の課題

地域や民間企業等のボランティアスタッフの人数が、まだまだ不足している。もっとたくさんの方にかかわってもらうことが必要である。

■ その他

屋外開催事業は、天候等に左右されるので、雨天時等の振替事業等の計画・検討が必要となる。



【絵画教室】

親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

甲賀市土山町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 親子ふれあい講座 (対象学校名：土山、大野小学校)	平均スタッフ数	1 人	
主な活動場所 土山中央公民館、土山開発センター	子どもの平均参加人数	12 人	
年間開催日数	5日	開始年度	平成27年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

親子がクラフトや料理の「ものづくり」や天体の「自然体験」を実施し、力をあわせて活動することによって絆を深める。

■ 特徴的な活動

- ・作品製作（書道・七夕編）
- ・自然体験（月を見よう）
- ・調理（クリスマスケーキのデコレーション）

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・保護者も一緒に参加していただくことで、子どもの成長を身近に感じていただくよい時間となっている。
- ・さまざまな分野で活動している地域の方を講師に迎えている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

町内児童や園児の手に行き渡るよう、学校・保育園と連携しチラシを配布している。内容については、季節の行事にあわせることで、伝統や文化を体験する機会となるよう設定している。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでた。また、自然体験講座（月を見よう）を実施後に、興味を持った子どもからお礼の手紙が届き、子どもの興味を引き出したことは大きな成果となった。

■ 事業実施上の課題

講座に参加されると雰囲気にも慣れ、次の講座にも参加しやすくなるが、まずは第一歩を踏み出していただけのように周知の方法を考える必要がある。

また、近年の少子化やスポーツクラブへの参加等で参加される子どもが減少傾向にあるが、どのようなことに興味があるのか、ニーズを知ることが課題である。



【親子で月を見よう】



【ケーキのデコレーション】

あいの土っこ “きらねっ人” いきいき活動

甲賀市土山町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 子ども公民館講座 (対象学校名：土山、大野小学校)	平均スタッフ数	10 人	
主な活動場所 土山中央公民館、鮎河公民館、山内公民館、大野公民館、 大野小学校	子どもの平均参加人数	23 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

地域の大人が指導者・スタッフとなり、料理教室やクラフト、昔遊びの体験活動を行っている。

■ 特徴的な活動

- ・季節に応じたおやつづくり (いちご大福)
- ・作品製作 (折り紙、スライム、ペットボトル工作)
- ・ふれあいあそび (おじゃみ、カロム、積み木、ジャンボオセロ、かるた)

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

ボランティアバンクに 27 人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し協力を求めている。また、保護者に送迎をしていただいているが、保護者も一緒に参加していただくことで、子どもの成長を身近に感じていただくよい時間となっている。子どもが参加しやすいように、町内 4 つの公民館や公共施設を巡回して実施している。区民祭や文化祭など地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

ボランティアバンク登録者一人ひとりの特技を活かした遊びを取り入れている。

■ 事業の成果

特に、夏休みのあそびのひろばでは、長期休暇中に友達と出会えて楽しく過ごしていた。参加児童も多く休日の受け入れとしてまだまだ必要であると考えます。また、他校の子どもたちと交流することができる機会となっている。活動内容は、昔遊びの伝承を中心にしながらも、新しい遊びを取り入れることで、スタッフの意識向上につながっている。

■ 事業実施上の課題

塾や習い事に忙しい子どもが多く、年々、参加者が減少傾向にある。内容のマンネリ化も課題のひとつであり、地域のヒト・モノを活かしながら新しい体験活動 (メニュー) を取り入れるなど工夫が必要である。また、ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。

■ その他

市民の方にとって、子ども公民館講座という名称よりも、「あいの土っこ ‘きらねっ人’ いきいき活動」という名称のほうが、何を行う事業なのかを理解していただける。この名称が地域に根付いていることは、子ども講座を行ううえで広報活動に大いに役立っている。



【折り紙 (区民祭)】



【カロム (あそびのひろば)】

みんなで天文を知ろう！ （親子講座）

甲賀市甲賀町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 天体観望会 (対象学校名：油日・大原・佐山小学校)		平均スタッフ数	10 人
主な活動場所 かふか生涯学習館		子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	1日	開始年度	平成27年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			

■ 活動の概要

天文知識の向上と親子の絆を深めることを目的とする。

■ 特徴的な活動

西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座について学ぶ。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

市内や近隣の高校・大学のクラブ（天文同好会）などに呼びかけ、生徒や学生にスタッフとして参画いただくような方法を模索している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

季節の天体現象を「お月見」などの行事にあわせ、親子で伝統や文化に触れる機会を継続して提供している。

■ 事業の成果

継続して受講している子どもは知識も深まりつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、活動を楽しみにしている親子の様子が見える。

保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じながら事業に参加できている。

■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生の親子を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難であり、プログラムがマンネリ化する傾向がある。また、内容的に比較的高度な専門知識を要することから人材確保は困難を極めるが、今後も安定的に事業を実施していくためにも、早期に新たな指導者・スタッフなどの人材育成を図る必要がある。



【天体観望会の様子】

みんなで学ぼう！（子ども講座）

甲賀市甲賀町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 KOKA楽子ども公民館 (対象学校名：油日・大原・佐山小学校)		平均スタッフ数	10 人
主な活動場所 かふか生涯学習館		子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	6日	開始年度	平成27年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			

■ 活動の概要

「お菓子づくり教室」はものづくりに対する関心を深めながら創造性を育み、異年齢や他校の子どもたちと交流する中で仲間づくりをすることを目的に開催する。

「茶道教室」は日本古来の伝統文化である茶道に対する関心を深めながら作法を学ぶとともに、他校の子どもたちと交流する中で仲間に対する関心を深めながら創造性を育み、異年齢や他校の子どもたちとの仲間づくりを目的とする。

■ 特徴的な活動

- ・「お菓子づくり教室」・・・季節の行事にあわせてお菓子レシピを基に、グループで作成する。
- ・「茶道教室」・・・各お点前を、多くのボランティアが世代を超えて受講生に教授していく。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

「お菓子づくり講座」では、地域住民が活動支援者として協力し、実施している。「茶道教室」では、講師の教室生に活動支援者として協力をいただいている。

また、お茶は当市の特産品であることから地域資源の活用を図っている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

開催日を季節の行事にあわせることで、伝統や文化を体験する機会となるよう工夫している。

また、町内児童にチラシが全て行き渡るよう、学校と連携し配布している。

■ 事業の成果

継続して受講している子どもは知識も深まり、リーダーシップも発揮しつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、活動を楽しみにしている様子が伺える。

保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じながら事業に参加できている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの減により毎回の事業実施に必要な人員を確保することが困難となり、開催直前にプログラム内容の見直しを迫られるケースが増えつつある。事業の安定的な実施や安全確保の観点からも、早期に新たな人材を育成することが求められている。



【茶道教室】



【お菓子づくり教室】

親子・家族のわくわく講座

甲賀市甲南町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 親子・家族のわくわく講座 (対象学校名：甲南第一、甲南第二、甲南第三、甲南中部、 希望ヶ丘小学校)		平均スタッフ数	5 人
主な活動場所 甲南公民館		子どもの平均参加人数	11 人
年間開催日数	3日	開始年度	平成27年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他()			

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動

- ・木工教室 小さな杉のイス
- ・デコレーションカップケーキづくり
- ・冬のお菓子づくり教室

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元のみそ加工グループに協力いただいて毎年講座を実施している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。危険だから親が全てをやるのではなく、子どもができること親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせし、子どもと保護者がいっしょに作業する楽しさを感じられるようにある程度の自由度を持たせている。

■ 事業の成果

子どもと親・保護者が協力して体験でき、かつ子どもを間近で見守れる事業であり、アンケートからも「親子で楽しめました」「ゆったり見守れてよかった」などの回答をいただいた。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。

また講座参加希望者が募集定員を上回るケースが多いことから、市民ニーズに対しどのような実施体制が望ましいかを検討していかなければならない。



【木工教室 小さな杉のイス】



【デコレーションカップケーキづくり】

こども体験講座

甲賀市甲南町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 こども体験講座 (対象学校名：甲南第一、甲南第二、甲南第三、甲南中部、 希望ヶ丘小学校)	平均スタッフ数	7 人	
主な活動場所 甲南公民館	子どもの平均参加人数	21 人	
年間開催日数	6日	開始年度	平成27年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

生活・社会体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。また、公民館が実施する子ども教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動

- ・手すきはがきをつくろう
- ・樹脂ストラップづくり
- ・七宝焼きづくり
- ・木の実クラフトとミニブックトーク（図書館と合同）
- ・こうか冬の音楽祭（中高生対象）
- ・お菓子づくり教室

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元高等学校の科学クラブの顧問・生徒に協力いただいている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

町内児童・生徒の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。講座内容について、夏休みの宿題の参考となるように調整したり、児童が参加しやすい時期に配慮したりしている。

■ 事業の成果

各科学講座では個性を生かした作品をそれぞれが作れたと思われるし、創作意欲につながったと感じた。図書館との合同講座も3回目となり合同事業の良い関係を継続できている。また中高生対象事業としては、音楽活動（社会体験活動）を通じた社会教育という位置づけで昨年に引き続き「こうか冬の音楽祭」を実施予定。

■ 事業実施上の課題

限られた財源の中からこども体験講座を企画していく必要があることから、事業に携わっていただける市民を育成することや地元との協力関係を築いていくこと、また他公民館、他行政部局と効率よく連携できる部分を模索することが必要と感じる。



【七宝焼きづくり】



【木の実クラフトとミニブックトーク】

親子講座

甲賀市信楽町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 親子講座 (対象学校名：信楽、雲井、小原、朝宮、多羅尾小学校)	平均スタッフ数	4 人	
主な活動場所 黄瀬宮農組合、たけのこ児童館	子どもの平均参加人数	8 人	
年間開催日数	2日	開始年度	平成27年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

体験活動等を通じ、親子のふれあいの時間を多く持ってもらう。

- ・野菜収穫
- ・しめ縄づくり

■ 特徴的な活動

地元で生産されるにんじんを収穫し、新鮮な食材でにんじんジュースを試飲し、機械で出荷前作業の洗浄作業を見学する。また、しめ縄づくりの体験を通して日本の伝統文化を学ぶ。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

しめ縄づくりを得意とされる地域の方を講師に依頼した。また、地元産の野菜を活用した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

地域での講師人材の発掘のため老人クラブとの連携を図った。また、組合との目的を共有し良好な関係を維持した。

■ 事業の成果

講師が子どもや保護者と接することにより、身近な存在と捉え、地域で守り育てる必要性を感じていただけた。

■ 事業実施上の課題

- ・日程の設定に苦慮する。
- ・どのような方法で広報すれば、たくさん参加してもらえるか。
- ・どのような事業をすれば、たくさん参加してもらえるか。



【大きなにんじんを収穫】

日本舞踊子ども体験講座 “おどりのおけいこ”

甲賀市信楽町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 子ども体験講座 “おどりのおけいこ” (対象学校名：信楽、雲井、小原、朝宮、多羅尾小学校)	平均スタッフ数	1 人	
主な活動場所 信楽中央公民館	子どもの平均参加人数	3 人	
年間開催日数	2 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

日本舞踊を通じ日本の伝統文化を学ぶことで、近年忘れかけている礼儀や作法など日本の古きよき文化を学ぶ。

■ 特徴的な活動

おどりだけでなく、礼儀作法も学んでもらう。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

講師は当公民館の自主活動団体に依頼し、地域にも教えてもらえる先生がおられることを知ってもらう。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

地域での講師人材発掘のため、自主活動団体との連携。

■ 事業の成果

日本舞踊といえ少し敷居が高いと思われがちだが、気軽に体験してもらうことができ、また、日本の伝統文化を楽しく体験していただき、大変興味を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・どのような広報をすれば、たくさん参加してもらえるか。
- ・どのような事業をすれば、たくさん参加してもらえるか。



【おどりのおけいこ】



【ゆかたのたたみ方】

湖南省における土曜日の教育支援活動の取組

■目指す姿

湖南省では、土曜日や長期休業中に、地域の大人、教員OB、大学生、中学生（小中連携）等の推進員の支援を受け、学習や体験活動のプログラムを設定して提供している。子どもの教育活動に地域の人などが関わることにより、学校の教員とは違った視点から子どもを支援いただき、その取組の情報を学校と共有するなかで、小学生の学習習慣づくり、学ぶ意欲を高め、学ぶ力の向上を図っている。

■本年度の活動

実施校	開催日数	主な活動場所	主な内容
石部小学校	12日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
石部南小学校	10日	学校、校区内福祉施設等	学力補充、地域に学ぶ
三雲小学校	10日	公民館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲東小学校	10日	児童館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺北小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
岩根小学校	20日	まちづくりセンター	学力補充(基礎基本の定着)
下田小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
水戸小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

共通の活動内容を中学校区の連携・協働で行ったり、校区の小学校とまちづくり協議会と連携・協働で行ったりすることで、学力補充や体験活動を豊かにできた教室が出てきた。このことにより、参加した子どもたちの学ぶ意欲を高め、学ぶ力の向上につながっている。

○課題

子どもの参加人数や活動内容のねらいによって、ボランティア(土曜教育推進員)の確保が難しい。スタッフやボランティアの打合せや支援にかかる意見交流を持つ必要がある。

■地域・民間企業・団体等の外部人材の協力や参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

○成果

まちづくり協議会と連携して運営することができた教室は、特に学習の発展である体験活動が充実してきた。

○課題

昨今の交通事情等から安全確保は重要であるが、保護者の送迎や、保護者の責任のもと児童・生徒が徒歩、自転車で自宅と会場間を行き来することに頼らざるを得ない。



【小学生の課題解決に中学生、地域の人が支援】



【親子参加型によるパン作り体験活動】

分らないところは、ボランティアさんが一緒に考えてくれるよ！一緒に勉強しよう！（石部小学校）

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 いべっ子学習教室 (対象学校名：石部小学校)	平均スタッフ数	18 人	
主な活動場所 石部まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	86 人	
年間開催日数	12 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

長い夏休み、なかなか家庭では宿題に取り組みない児童もいると思われるので少しでも集中してがんばれる場を提供し、学習意欲が高まるよう支援をしている。参加者は、自由に教室に参加するのではなく、事前に申し込みを取り、人数に合わせて会場を確保し、場所をセッティングしている。これは、会場までの安全確保や学習支援ボランティアの確保のためである。

夏休みに入っすぐの日から夏休みが終わる後半とに分け、水泳教室などが行われぬ日を選び、平日を中心に開催している。昨年は、土曜日にも開催したが、家族で出かけたりするため、その日の参加人数が減ってしまった。



【学習教室で学んでいる様子】

■ 特徴的な活動

各自が学習するもの（宿題や自主学習）を持参し、難しいところは学習支援ボランティアが自分で答えを出せるように支援をしている。各学年に合った学習プリントを準備したり、読書をしたりするなど、持ってきた学習が終わっても遊んでしまわないように配慮している。

また、学習教室へ来る児童の交通安全のため、地域の方々が交差点に立っくださったり、自転車置き場の誘導や整理をしてくださったりしている。さらに、学年毎の受付も担当していただいている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

学校で学習支援員として子どもたちに関わっている方に来ていただいたり、教員を目指している大学生を紹介していただいたりしている。中学校では全校生徒に向け、ボランティアの募集をしていただき、中学生による学習支援ボランティアとして活躍してもらっている。

今後は地域に配布している石部小学校校報「いしべっ子」などで募集することも検討している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

事業後には、参加児童や保護者の感想等を聞き、部会での反省会を開いて改善すべき点を明確にしている。この結果を受け、次回に活かせるようにし、子どもたちがまた来たい、友だちも誘いたい、と思えるような教室になるよう、何より地域の人材確保を工夫していきたい。

■ 事業の成果

今まで3年間継続してきて、児童や保護者にも浸透し、年々参加者が増えている。参加した児童は、ほとんどががんばって学習に取り組み、早くに宿題を終わらせている。家庭で一人でやるより集中でき、分からないところは質問できるのがよい。宿題が終わってもプリントで知らないところを学習できるのも楽しいという感想があった。一人ではなかなかできないことが、友だちと一緒にできる。やらされるのではなく、自分から進んで取り組もうとする姿勢が身に付く児童が増えてきた。

■ 事業実施上の課題

低学年は集中できる時間が短いので、途中で頭の体操や手あそび、読み聞かせ等を入れたらどうかという意見も出た。今後も参加人数が増えることが予想されるが、一つの部屋に大人数を入れるとざわつくので、できれば少数で分けたい。部屋の確保とボランティアの増員が必要になるが、まず募集の仕方を見直したい。

また、児童の安全のため、注意すべきことを子どもたちにもしっかりと伝え、何か起こった時の対処の仕方等も事前に準備していく必要がある。



【受付中の子どもとボランティア】

子どもたちの自主性を育み、ふるさと意識を醸成する「みなみっこ土曜講座」（石部南小学校）

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 みなみっこ土曜講座 (対象学校名：石部南小学校)	平均スタッフ数	10 人	
主な活動場所 石部南小学校	子どもの平均参加人数	40 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 28 年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

本年度は、「みなみっこ土曜講座」を開設して2年目となる。活動自体が目的とならないよう、本校の児童にどのような力を身に付けさせたいかを学校運営協議会理事会(以下、理事会と記す)で協議し、目指す姿を明確にした。本講座が①子どもたちの自主性の育成②ふるさと意識の醸成につながるよう年間10回の活動を計画・実施した。

また、本年度は「子どもの自主性」を育むことをねらいに掲げた。すべての活動を大人がお膳立てするのではなく、子どもの思いを取り入れ、子ども自らが活動に参画するという形に近づけるため代表児童と理事会メンバーによる懇談会を持った。そこで出された思いを活動の計画に生かすことができた。

■ 特徴的な活動

- 第 1 回 県立近江学園を訪問しよう
- 第 2 回 地域の伝統行事「いもち送り」に参加しよう
- 第 3 回 レッツ・クッキング！ 飯ごう炊さん&カレー作り
- 第 4 回 ペットボトルロケットを飛ばそう
- 第 5 回 わくわくスポーツDAY
- 第 6 回 昔遊びを楽しもう
- 第 7 回 わりばし工作にチャレンジ！
- 第 8 回 近江学園「ふれあい広場」に参加しよう
- 第 9 回 新年をむかえよう（もちつき&しめ飾り作り）
- 第 10 回 地域の伝統芸能「石部太鼓」にチャレンジ



【発射！ ペットボトルロケット】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・理事会のメンバーや地域コーディネーターの人脈の活用
- ・PTA、区長会、石部南まちづくり協議会、スポーツ少年団、体育協会等との連携

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・活動目的の明確化 ①自主性の育成 ②ふるさと意識の醸成の二本柱
- ・企画段階からの児童の参画
- ・学年縦割りのグループ編成によるリーダーの育成



【手作り屋台で「たこせん屋」開店！】

■ 事業の成果

- ・懇談会の中で出された「料理を作りたい」「やったことのないスポーツをやりたい」「木を使って工作をしたらおもしろいのは？」「近江学園のふれあい広場で屋台をやってはどうか」などの希望や意見を10回の活動の中で具体的に形にし、子どもたちの前向きな姿を引き出すことができた。
- ・5つの障害児・者福祉施設が校区にある本校にとっての「ふるさと意識の醸成」に関わって、県立近江学園に関わった活動を2回実施することができ、学びや交流を深めることができたのは成果である。
- ・PTAとの連携により、近江学園ふれあい広場で模擬店を出店することができた。当日、子どもたちがお客さんに対応するという貴重な経験をすることができた。
- ・各活動において縦割りグループを編成したことで、高学年が下学年の面倒をよくみて、リーダーシップを発揮できた。
- ・地域ボランティアとして毎回多くの方々積極的に子どもたちに関わってくださって、地域の強みを実感した。

■ 事業実施上の課題

- ・講座内容によって参加者の人数の偏りが見られる。対象学年をどのように設定するかが難しいところである。
- ・一つひとつの活動について、準備にかかる時間や準備物が多く必要であった。毎年このような活動が継続してできるかは今のところ不透明である
- ・活動の経費を捻出する方法や安全面での課題について検討が必要。

学ぶ楽しさを「土曜教室」から ～1対1の関わりを大切に～ (岩根小学校)

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人	
活動名 岩根小土曜教室 (対象学校名:岩根小学校)	平均スタッフ数	7人	
主な活動場所 岩根まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	7人	
年間開催日数	20日	開始年度	平成26年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他()		

■ 活動の概要

「しんどい子によりそう」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小教育方針である。放課後教室、クラブ、高齢者ふれあいサロン、ホテルまつり、店長修業、1年生清掃支援、学習支援、環境支援、図書支援、読み聞かせ、登下校の見守り、稲作体験支援など、様々な活動や支援を展開しているが、「土曜教室」もその一環である。

「土曜教室」の目的は授業以外の場で子どもたちの学習を支援することであり、本校の場合、「気になっていても、仕事等の関係で子どもの学習を見てやれない、休日も家にいるのは子どもだけなので、なかなか家庭学習の習慣を身につけることができない」3・4年生を対象児童にしている。また、指導にあたっているのは、学区内に居住する教員OBや学生ボランティアを中心に、「岩根の子どもたちの力になりたい」という熱い思いを持ってくださっている方々である。

■ 特徴的な活動

当該学年の内容だけでなく、子ども一人ひとりのつまずきによっては1～2学年前から学習をスタートし、次第に積み上げていくよう工夫している。その内容は国語や算数の基礎的な学習が主で、音読練習を課して、期末には音読発表の機会を設けている。

- * 1日の流れ
- 9:20までに、まちづくりセンターに「登校」する。
 - 9:30～9:50 はじまりの会 (あいさつ みんなの時間(アイスブレイキング、頭の体操、など))
 - 9:50～10:30 1時間目 (教科は、子どもと指導者が相談して決める)
 - 10:30～10:40 休憩 (「ことわざカルタ」のようなカードゲームを楽しむ)
 - 10:40～11:20 2時間目 (1時間目とは異なる教科。国語を学習した子は算数、算数の子は国語)
 - 11:20～11:30 おわりの会 (あとかたづけ、あいさつ)
 - 11:20～12:00 指導者による打ち合わせ (今回の学習の様子を報告し、次回の計画を練る)

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

指導していただく先生については、教員OB、学生、他の活動のボランティアをされていた方々からお願いをして、常に土曜教室を知っていただく機会を持ち、賛同していただける方に来ていただいている。指導者の確保は重要である。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

教室の運営を担う指導者(ボランティア)が、対象となる子ども一人ひとりの学習状況を細かく把握し、プログラムを立てている。そのうえで、指導者1名が子ども1名について指導するという体制をとり、わからないところ、困っているところを克服できるように支援している。それだけに、事後の「打ち合わせ」の時間を大切に、単なる情報交換にとどまらず、どのように支援していくことが有効かをそれぞれの視点から意見を述べ合う時間を持っている。子どもの成長を確かに見取っていくことが指導者の意識を高め、次への意欲にもつながる。

■ 事業の成果

中学年の時期に学ぶ楽しさやできる喜びをしっかりと持つことは、今後の成長に大きな影響を及ぼす。岩根小土曜教室では、「1対1での関わり」を大切に、その子に応じた学習を行うことにより、学習からの笑顔が見られることを目標にしてきた。自分の苦手な分野になると「なんとかごまかして逃げようとする」子も見られることから、わからないことを「わからない」と言えるようにすることも大切にしてきた。「わからない」と口にしても誰一人怒りも冷やかもしない場において、子どもたちは自己肯定感を獲得し、学習に対して前向きな姿勢を持つようになることが土曜教室の大きな成果であると言える。



【教室風景 1対1の関わり】

■ 事業実施上の課題

指導者の確保が何よりも重要であり、課題である。指導者自身のやりがいが必要であり、子どもの成長を喜びにかえるものと、岩根小土曜教室のすばらしさを感じている。開始年度以来「1対1の関わり」を守っているため、対象の児童数にも制限があり、どの児童に参加してもらうかの検討も大切である。

学校や地域で学ぶ土曜日教室 ～小中連携・地域でつながる子どもたち～ (菩提寺小学校)

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人	
活動名 土曜日教室 (対象学校名：菩提寺小学校)	平均スタッフ数	9 人	
主な活動場所 菩提寺小学校、菩提寺まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	29 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

- 第 1 回 ペット啓発看板作成・・・昨年も作成した啓発看板。地域の各所に看板を設置。〈菩提寺北小と合同〉
- 第 2・3・4 回 夏休み勉強会・・・第 2・3 回は主に夏休み宿題（ワーク等）、第 4 回は絵画。
- 第 5 回 歴史ワークショップ・・・自分たちの町の歴史を学び、検定試験にトライ。〈菩提寺北小と合同〉
- 第 6 回 ペットボトルロケット製作・・・親子でペットボトルロケットを製作後、試射。ロケット作りを学んだ。〈菩提寺北小と合同〉
- 第 7 回 魚つかみ体験・・・雨天のため、川での体験から室内での体験に変更。〈菩提寺北小と合同〉
- 第 8 回 年賀状作り・・・いろいろな技法でオリジナルの年賀状を作成。
- 第 9 回 書き初め・・・新年のはじめに書き初めを行う。冬休みの課題づくりや作品づくりをする。
- 第 10 回 竹工作 竹箒づくり・・・地元の竹を利用して、地域の方の指導で竹ぼうきを製作。〈菩提寺北小と合同〉

■ 特徴的な活動

菩提寺北小学校と合同で実施した回は、菩提寺まちづくり協議会のサポートを受けた。自分たちの住んでいる地域を知る学習を取り入れている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

本校卒業生への声かけにより、夏休みの勉強会には多くの大学生が参加してくれた。その繋がりを大事にして、今後、活動へのサポート体制が充実するようつないでいく。



【夏休み勉強会 絵画
大学生のボランティアが参加】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

参加する側もサポートする側も有意義な時間となるように、内容を検討し、無理のない活動計画を立てて取り組むようにしている。

■ 事業の成果

夏休みの勉強会はいずれの回も参加者が多く、ある程度定着してきた。ただ、会場が本校以外での活動の回は、参加者が少なくなる傾向である。
活動内容によっては、中学生のボランティアもあり、小中連携の一つになっている。



【魚つかみ体験 雨のため室内で】

■ 事業実施上の課題

いろいろな事を学習することも大事だが、準備やサポーター集めなど活動以前の前準備が大変なので、無理のない活動を検討することも必要である。

あすなろっこの土曜事業 ～学区、小・中連携でつながる絆～（菩提寺北小学校）

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人	
活動名 あすなろっこの土曜事業 (対象学校名：菩提寺北小学校)	平均スタッフ数	5人	
主な活動場所 菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	45人	
年間開催日数	10日	開始年度	平成27年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他()		

■ 活動の概要

菩提寺学区には菩提寺小学校と菩提寺北小学校の2小学校がある。6回は各校で開催し、4回は2校合同で開催している。支援ボランティアとして地域の方、保護者、甲西北中学校の生徒が参加し、小学生との絆を結んでいる。

■ 特徴的な活動

日 程	内 容	実施場所	参加者数
第1回 6月17日	ペット啓発看板作成	まちづくりセンター	6人
第2回 7月26日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	85人
第3回 8月2日	わくわく絵画教室	菩提寺北小学校	74人
第4回 8月9日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	89人
第5回 8月23日	菩提寺歴史ワークショップ	まちづくりセンター	12人
第6回 8月26日	ペットボトルロケット	菩提寺小学校	26人
第7回 9月16日	魚つかみ(大山川)	大山川・イワタニ自治会館	29人
第8回 12月9日	年賀状作り	菩提寺北小学校	22人
第9回 1月5日	新春 書初め	菩提寺北小学校	19人
第10回 2月17日	竹工作 (竹ほうき作り)	まちづくりセンター	30人



【魚つかみは楽しいな！】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

定期的に甲西北中学校の生徒が、ボランティアとして参加している。また地域人材はいろいろな手伝いやちょっとした話の中で、いい人材が見つかったら、連絡を取り活動内容を説明し興味をもってくれたら地域の先生としてお願いする。その場合それぞれ得意分野があるので、民間の学習教室で先生をしていた方には学習面を主にみてくださるようお願いし、絵画は絵の得意な方や美術系の学校を卒業された方などをお願いするようにしている。またモノづくりや地域の歴史は、まちづくり協議会の方々の力を借りている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

夏休みの学習教室・絵画教室はこの土曜事業の核となるもので、たくさんの参加者がある。その夏休みの教室以外は、毎年新しい特色ある活動を企画するようにして、子どもたちの参加意欲がわくように工夫している。これにはやはり支援して下さる地域の先生が重要になり、色々な力を持っている地域の方を発掘することが大事である。また2校と菩提寺まちづくり協議会との連携がこれから先もこの事業を継続していくには不可欠である。



【菩提寺の歴史ワークショップの様子】

■ 事業の成果

学校では体験できないことや、いつもの学年単位・学校単位ではない2校混じっての活動には大変意義があり、一度参加した子どもたちは、色々な活動に参加するようになった。

10回皆勤で参加する子どもも出てきた。また、小・中連携でかかわり合うことで、地域の子どもが一つになることができた。

■ 事業実施上の課題

来年度以降の10回の事業では、両小学校と菩提寺まちづくり協議会との連携をもっと密にして、思いを共有することが長く継続していくには必要である。

■ その他

湖南市立菩提寺北小学校ホームページ : <http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/>

地域で育む みくもっ子 ～さんさん教室～ (三雲小学校)

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 「さんさん教室」 (対象学校名：三雲小学校)	平均スタッフ数	14 人	
主な活動場所 吉永公民館・夏見公民館・中央、柑子袋まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	36 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

夏休み前半（8月第1週まで）に8日間、8月下旬に2日間を使い、4か所の会場で「さんさん教室」を開いた。内容は自習学習を1時間、体験学習を1時間の2部構成とし、たくさんの子どもが意欲を持って参加できるよう企画した。

■ 特徴的な活動

各日、午前中を使い1時間を学習に、続く1時間は地域の方を迎えて体験活動を行った。学習の内容は夏休みの宿題や自主学習とし、体験活動は①ふしぎと遊ぼう「くつつくって なに？」(接着剤について) ②食育(三角おにぎらず) ③茶道(抹茶体験)を行った。期間中は土曜教育推進員のほか、みくも学区まちづくり協議会・民生児童委員・健康推進員・地域の方など多くの方に活動を支えていただいた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

みくも学区まちづくり協議会と連携して運営することができたため、特に体験活動が充実したものになった。地域の人材に体験活動の講師を依頼することができ、また、材料費の負担やスタッフとしても、大いに支援をいただいた。その中から次年度の企画が持ち上がるなど、継続した教室への連携の見通しができた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

会場への行き帰りは安全が第一である。保護者の送迎を必須とすると参加が制限される児童もあるので、徒歩・自転車・車での送迎と手段は問わずに保護者の了承をもらった。昨年までの参加状況を踏まえ、本年は参加できる会場を、地区別に指定した。地区別にすることにより、往復の安全面・参加人数の分散・体験学習の重複参加などの改善を図った。

学習だけでは、集中力が持続しないことが予想されたので、参加型の体験をあわせて企画した。この企画が「さんさん教室に行ってみよう」と参加のきっかけになっている。

■ 事業の成果

会場では、子どもたち同士で教え合う姿が見られた。グループごとの実験・結果の発表では、高学年が低学年の面倒を見るなど、異年齢の関わりを持つことができた。「おにぎらず」では牛乳パックを利用し、昨年と違った方法で作り好評を得た。各会場とも40名前後の参加となり、各日15名程度の地域の方に支援を受け、安全に楽しく学習・体験ができた。保護者からは良い評価を寄せられ、また来年も参加したいという声が多い。また、不登校気味の児童も「さんさん教室」に参加することで、2学期からの登校への意欲につながるものと期待している。「さんさん教室」が夏休みの学習会として定着し、地域の方と子どもたちをつなぐ場となっており、異世代交流の場として、ご支援いただいた地域の方々の喜びとなっているとの声も寄せられた。

■ 事業実施上の課題

地区別に開催日・会場を指定したことにより、参加人数の分散は図れた。しかし、その一方、日程が合わず参加できなかった子どもたちもいたため、日程の選択方法などの検討が必要である。今後まちづくり協議会との連携・協働により体験学習の充実を図り、学習支援ボランティアや体験活動の講師など、支援いただける人材の確保に努めた。



【夏休みの宿題 がんばろう】



【くつつくって なに?】

学びの場・体験の場の提供 ～東っ子教室～ (三雲東小学校)

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人	
活動名 東っ子教室 (対象学校名：三雲東小学校)	平均スタッフ数	3 人	
主な活動場所 三雲児童館、三雲まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	21 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

夏休みの前半を中心に、午前中は学習に取り組む時間としての習慣づけになればと始めた「東っ子教室」。1～6年生までの全学年から参加希望者を募り、三雲児童館、三雲まちづくりセンターで学習会を開催している。今年度は三雲児童館とのコラボで科学実験教室を開催した。昨年より地域の講師を招いて始めた「親子パン教室」は、日頃忙しく働いている保護者と児童と一緒に体験できる活動として定着しつつある。



【児童館での学習会】

■ 特徴的な活動

- ・会場は公共施設を利用していることもあり、参加者は学習だけでなく、自分たちが使う机の準備、掃除、片付けを全員で協力して行っている。
- ・毎回、今日の目標（めあて・学習量）を自分で決め、帰る前に全員の前で今日の目標と今日の自分はどうかであったかをふり返りを発表している。
- ・「親子パン教室」は昨年度のアンケートでも続けて開催してほしいという要望により、引き続き開催することになった。生地作りから成型まで、親子で協力できるのが魅力である。



【親子パン教室】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・「東っ子教室」開催予定日に見守りのスタッフの人数が不足してしまう日があったため、今年度はまちづくり協議会と連携し、協力をお願いした。
- ・毎年協力頂いているスタッフに継続して参加していただいた。
- ・会場として利用させていただいている三雲児童館とのコラボで科学実験教室を開催した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・「東っ子教室」のスタイルは開催当初から基本的には変えていない。「自主・協力」「異学年の交流」を大切にしている。
- ・参加者の保護者にもスタッフとしての協力をお願いしている。
- ・協力者の輪を広げていけるよう地域の区長会・まちづくり協議会で取組の説明と協力依頼を行った。

■ 事業の成果

- ・共働きの家庭も多いため、スタッフや友だちもいて、毎日自主的に学習している「東っ子教室」が長期休業中の良き学びの場になっているとの感想も多い。
- ・毎年参加することで、あいさつや準備、後片付け、掃除も自発的にできるようになり、マナーもよくなっている。リピーターの児童の成長が初めて参加する児童のよいお手本になっている。
- ・同じ中学校区の三雲小学校のコーディネーターと協力し、各方面へ取組の説明、協力依頼に行くことで、今年度は、まちづくり協議会の協力を得ることができ、スタッフとして参加していただいた。
- ・三雲児童館とコラボすることで、いつもの学習会と違う内容で変化のある企画ができた。
- ・親子活動を取り入れることで、保護者に他の取組や活動をお知らせすることができ、知っていただくよい機会になっている。

■ 事業実施上の課題

- ・今年度協力いただいたまちづくり協議会の現役員の方とはつながりを持たせたが、役員交代の年以降は連携が未定である。継続的に連携していけるよう努力が必要である。
- ・年々参加者が増えている。特に参加者の多い日のスタッフとして協力いただける方の人員確保が課題である。
- ・スタッフに気持ちよく参加協力いただけるための打合せや意見交流の場が少ない。今後の活動に向けて改善していきたい。
- ・活動の様子や感想をまとめ、「応援団だより」を全校に配布し、地域回覧にて取組についてお知らせしている。

“チャレンジ下田っ子”『しもだっこはしらべっこ』～理科の実験をしてみよう～（下田小学校）

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人	
活動名 しもしょう土曜教室 (対象学校名：下田小学校)	平均スタッフ数	6 人	
主な活動場所 下田小学校、下田まちづくりセンター	子どもの平均参加人数	15 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

下田小学校の「しもしょう土曜教室」では、夏休みの宿題会「しもしょうサマースクール」や地域の行事に参加する体験学習、日枝中校区合同で行う「書道教室」等を行っている。今年度からコミュニティ・スクールとなった下田小学校のめざす子どもの姿“チャレンジ下田っ子”のより子どもの主体性を育てる視点と昨年度の反省をふまえた『しもだっこはしらべっこ』～理科の実験をしてみよう！！～を1学期と2学期に企画、実施している。

■ 特徴的な活動

《実施日時》第1回目 平成29年 6月10日(土)14日(土)9時～12時30分
第2回目 平成29年10月14日(土)21日(土)9時～12時30分

《活動場所》下田小学校 図書室・家庭科室

《活動内容》各回1日目：自分の調べたい、実験したいテーマを考え、実験方法などを図書室の本を利用して調べる。

各回2日目：1日目で調べたことについて、実際に自分で実験をする。
結果をまとめ、他の参加者に向けて発表する。



【サンマを解体してみよう】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・子どもたちが「自分で進める活動」ということで、調べたい、実験したいテーマから自分たちで考える企画にした。
- ・子どもたち一人ひとりが、違ったテーマについて調べ、実験するので、ボランティアと毎回打ち合わせを実施した。
- ・「調べ学習の手引き」や「自由研究のヒント」を貼った学習ノートを準備し、子どもたちが活動しやすいようにした。
- ・なるべく子どもたちの力で活動を進めることができるように、ボランティアの方々には、見守り中心で活動していただいた。
- ・第2回目の時に、2人ペアで調べ学習をしたいと子どもたちから提案されたので、グループ学習もよいとした。



【発表後の集合写真】

■ 事業の成果

- ・子どもたち自身が「調べたいこと、実験したいこと」について活動したこともあり、集中して活動することができていた。
- ・ボランティアとの事前打ち合わせを行ったことで、子どもたちの現状を知ることができ、スムーズに活動を進めることができた。
- ・各回、土曜日に実施したことで、普段ボランティアに参加できない男性（父親）が参加することができ、子どもたちと顔見知りになることができた。→ 他の行事で顔を合わせた時に、自然に挨拶や会話をすることができた。（ボランティアの声）

■ 事業実施上の課題

- ・各回2日間を通じて活動するので、ボランティアの確保が難しく、本来は、子ども1人につきボランティア1人で活動を進める予定だったが、実験テーマの違う子ども2人を1人のボランティアが支援することがあった。
- ・企画名に「理科の実験」と入れたことで、教科としての「理科」に苦手意識を持つ子どもたちが参加申し込みをためらっていたとの保護者からの声があった。
- ・定員が各回10名程度なので、PRを控えていたが「分かっていたら行きたかった」という子どもたちの声があった。
- ・屋外で実施する実験などもあり、天候によってはできない場合もあるので（今回は実施できた）、今後は対応策を考えていきたい。

■ その他

事業実施前には、子どもたちが「自分の力」で最後まで活動をできるか心配していたが、ボランティアが「信じて見守る」ことで、子どもたちが安心して活動を進めることができていたことが一番の成果である。普段は支援をする活動が多いボランティアにとっても「信じて見守る」という活動は“チャレンジ”だったのではないだろうか。これからも子どもたちだけでなく、ボランティア（地域の大人）も“チャレンジ”できる企画を考えていきたい。

～地域とつながれ！ 「水戸っ子学ぶ力アップ！教室」の取組～

(水戸小学校)

湖南市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2人
活動名 水戸っ子学ぶ力アップ！教室 (対象学校名：水戸小学校)	平均スタッフ数	6人
主な活動場所 水戸小学校	子どもの平均参加人数	35人
年間開催日数	10日	開始年度
		平成27年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他	

■ 活動の概要

子どもたちの「もっと勉強したい!」「もっとわかりたい!」という強い意欲をもって学ぶ姿が増えてほしいとの願いから、夏休み、冬休みに行う絵画教室や、日本語の理解度に違いがある、全校児童数の20%を超える外国にルーツをもつ子どもたちに丁寧に支援していただく学力補充教室、下田小学校、日枝中学校と合同で行う書道教室などを行っている。授業以外に小学生が学ぶ場をつくり、地域の人たちとふれ合う機会や体験活動などを通して「最後までやりきる力」をつけることを目的として、小学生をはじめ、かかわる地域の中学生、大人がそれぞれの立場で、充実感、達成感を得られる「水戸っ子学ぶ力アップ！教室」をめざしている。

■ 特徴的な活動

【夏休み絵画教室の流れ】

タイムスケジュール	小学生	中学生
8:30		集合・ミーティング
8:50	受付開始・着席	受付担当
9:00	挨拶・スタート	司会進行・自己紹介
11:45	終了・片付け開始	終了アナウンス
11:55	掃除	掃除
12:05	終わりの挨拶・解散	終わりの挨拶
12:30		反省会后解散



【さあ、描くぞ～!!】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

3回目の実施となり小学生の先生となって地域の中学生、高校生が教えている。中学校のコーディネーターと連携し多感な時期に「教える」楽しさを知り自信をつけてもらいたいという目的もあり行っている。打ち合わせは細かく行っているが「絵画」という内容なので、毎年どのように教えたらいいのかと悩む姿も見られた。今年は知人に元美術の教員の方がいることを知り、絵画教室の指導を依頼したところ、快く引き受けてくださった。

直接、小学生に教えるのは、中学生、高校生として地域の人が全体のフォローをしていただいたことで、中学生、高校生が安心してスムーズに活動することができた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

昨年は2日間の日程で行ったが、早く作品ができてしまった子がいたことから1日の実施とした。事前に描く絵を決めて参加して教室がスタートとともにすぐに取り組めるようにしている。描く絵を決めてこれなかった子どもには資料を用意し、中学生、高校生と相談しながら決めるようにしている。教える学年の希望、兄弟の組み合わせをどうするかなどは中学生、高校生たちの力で決定している。6年生で参加した子どもが中学生となり、また小学校に帰って来ようように声かけをしている。

■ 事業の成果

毎年楽しみに参加している小学生や中学生、高校生。昨年6年生だった子どもが教えられる側から教える側になって、自分がどう声かけしてもらったら嬉しいか、やる気になるかなどについて考えられていた。下級生の様子をよく把握していて小学生にあった声かけをしたり司会進行の役割を買って出たりするなど継続して参加している子どもの成長している姿が頼もしく感じられた。

教員OBからは、絵は指導ではなくどのように描きたいかを聞き出し寄り添うことが大切だと教えていただき、「絵を描こう」と思っただけでこの教室に参加してくれたこと、「先生」となって参加しようと思ってくれたこと自体が素晴らしいという講評をいただいた。

■ 事業実施上の課題

大勢の中で取り組むのが苦手な子や、ずっと側についてほしい子などさまざまなタイプの子がいる。中学生、高校生には臨機応変に対応してもらったが、自分で判断することは難しいため、小、中学校のコーディネーターが子どもの様子を把握してフォローする必要がある。全体的に集中して取り組んでいたが、グループの中でもみんなできているところとバラバラに取り組んでいるところで作品の出来上がる時間に差ができていた。「失敗した」や「難しい」で終わってしまうと次の意欲につながらないので、「できた!」と満足して教室を終えられるように取り組んでいきたい。

東近江市における土曜日の教育支援活動の取組

■目指す姿

地域が一体となって子どもたちの豊かな心を育む環境づくりを推進し、子どもたちに地域の一員であるという自覚と自分の住む地域への愛着を持たせる。また、自然体験や社会体験等を通して、協調性、自立性などを身につけるとともに、子どもたちが地域社会の中で多くの大人と接する機会を設け、子どもたちの社会性、自主性、想像性等の豊かな人間性を涵養する。

■本年度の活動

- ・地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画し実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図る。
- ・小学校の体育館や地域の社会教育施設等を活用して、子どもたちが安全に安心して活動ができる居場所を設け、地域の人々が参画し、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動などを通じた、地域住民の交流活動を実施する。
- ・取組を通じて、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

●蒲生マックスクラブ（10 教室）：茶道、キッズフラワー、ジュニアバンド、囲碁・将棋、蒲生野太鼓わらべ組、マックスダンス(初級)、マックスダンス(中級)、マックスダンス(上級)、陶芸、わくわくチャレンジ隊

●玉緒キッズダンス（2 教室）：ダンス（初級）、ダンス（中級）

●五個荘OH！茶チャチャ（1 教室）：茶道

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

各地域のイベントなど、子どもたちの学びの成果を発表する場を設け、広く地域の人々に本事業の目的や内容、成果を発信した。これらのことを通じて、子どもの体験活動や居場所づくりの他に、地域教育の活性化にも貢献することができた。

○課題

魅力的な活動をより多くの子どもたちが体験できるように参加者を増やしていく。

■地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

○成果

より専門的な知識の習得や幅広い経験が可能であり、子どもたちの興味関心が深まり、自らの向上心の持続につながる。また、子どもたちが地元地域で学んだり、体験したりすることで、多くの人々と出会い、関わり合うことで、地域への愛着につながった。

○課題

専門的な指導が可能な指導者の人材確保が必要である。

東近江市蒲生地区 陶芸クラブの取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生コマックスクラブ 陶芸クラブ		平均スタッフ数	5 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	5 人
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・土からの焼き物作りを実施している。
- ・陶芸を通じて、自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりして、子どもたちが作品の完成を楽しんでいる。
- ・お互いの作品を鑑賞することを通じて子どもたち同士が交流し、意欲的に取り組む活動を展開している。

■ 特徴的な活動

- ・年間で一人が4～5作品を製作する。
- ・マックスクラブ発表会で作品を発表し、自身の学習の成果を披露している。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても陶芸体験教室を実施している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

蒲生地区で活動されている「あかね陶芸クラブ」の方に指導をお願いしている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重、できるだけ指導者は、直接手を出さないように心がけている。
- ・マックスクラブ発表会等で子どもたちの作品を発表し、次の作品への創作意欲を高められるようにしている。
- ・陶芸体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子どもが着実に増えてきている。毎年、コンスタントにクラブ員が集まる教室である。
- ・子どもたちは、作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・作陶に親しみ、マックスクラブの目指す姿である様々な感覚を高めることができた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、陶芸に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・早く作業が終わる子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子ども等、製作時間に個人差があり、子どもたち個々への対応が難しい。
- ・活動は作陶作業が中心であるが、その活動に変化をつけることによって、より子どもたちの製作意欲が持続すると考えているが、その手立てについて工夫が必要である。

■ その他

マックスクラブ発表会では、陶芸教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【作陶の様子】

東近江市蒲生地区 KIDS FLOWERの取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER		平均スタッフ数	1 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	10 人
年間開催日数	5日	開始年度	平成26年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得することとともに、仲間と共通の趣味を楽しむ。
- ・フラワーアレンジメントを作成する活動を通して、子どもたちの創造性を高める。

■ 特徴的な活動

- ・プリザーブドフラワーや押し花等を使って、母の日やクリスマス等のイベントのアレンジメントを中心に作成している。
- ・じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組むことで、創造することの楽しさを味わうとともに子どもたちの活動に対する持続性も養っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の方の紹介等により、外部人材に来ていただくことで、子どもたちがより専門的で深い知識に触れることができた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・作品作りには時間がかかるため、時間内に終わるように、特に下準備には時間と手間をかけている。
- ・仲間と和気あいあいとフラワーアレンジメントを楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・お互いの作品を鑑賞し合うとともにその作品を地域の行事などに展示して、多くの方に観てもらうことで創作意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・フラワーアレンジメントに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・地域で周知され、毎年教室が開催される継続的な活動ができている。
- ・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養うことができたと考えられる。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。

■ 事業実施上の課題

- ・十分に事前の準備には取り組んでいるが、いざ活動となると子どもたちは一生懸命になるので、決められた時間内に活動を終了することが難しい。
- ・フラワーアレンジメントは材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■ その他

マックスクラブ発表会等の展示コーナーで作品を発表したり、アレンジフラワー体験教室を実施したりして、活動内容を紹介しPRしている。



【アレンジフラワー体験教室】

東近江市蒲生地区 茶道クラブの取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ 茶道クラブ		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	9 人
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 28 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・裏千家茶道による所作の基本を学ぶ。
- ・簡単なお盆点てができるようにする。

■ 特徴的な活動

- ・茶道経験のない子どもが多いので基本から学んでいる。
- ・茶道の所作と併せて、基本的な礼儀作法についても話をしている。
- ・マックスクラブ発表会では、子どもたちが茶道体験者をもてなすところまでできている。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても茶道体験教室を実施している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

蒲生地区で長年、茶道を教えておられる方に指導を依頼している。また協力者としてそのお弟子さんや蒲生地区文化協会所属の「裏千家茶道クラブ」代表者にもお願いしている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

茶道体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは、積極的に取り組み、練習（稽古）に集中する様子が見られた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、茶道に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

動きがあまり無く、地味に見られがちなので、なかなか参加者が集まらないのが現状である。

■ その他

マックスクラブ発表会では、茶道教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【体験教室の様子】

東近江市蒲生地区 あかねジュニアバンドの取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	18 人
年間開催日数	50 日	開始年度	平成 28 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域交流)			

■ 活動の概要

- ・昨年度から新たに立ち上げたクラブなので、参加者全員の経験は浅いが、熱心に取り組むことができている。
- ・継続的な練習が必要であるため、毎週練習を行い、可能な限り、県・市・地区の大会に出場して演奏の経験を積み重ねている。
- ・地域の行事やイベントを盛り上げるために、積極的に参加している。

■ 特徴的な活動

- ・初心者は、まずは音を出す練習から始めている。
- ・簡単な曲から取り組み、次第にレベルの高い曲に移行している。
- ・地区や市の大会、発表会等への出場や参加に向けて、常に目標を持って練習している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
- ・指導者の知り合いなどで他地域の子どもバンドを指導している方の協力も得ている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・初心者ばかりなので、練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・少しずつ吹けてくると、個々のレベルを上げるためパートごとに分かれて練習している。
- ・発表会や大会に出場することを通して、子どもたちのステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは、毎回の活動を何より楽しみにしてくれている。
- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちの意識に高まりがみられる。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・楽器演奏の習得には個人差があり、揃えるのが難しい。
- ・通常はコミセンで練習しているため、防音上、練習場所の確保が難しい。



【練習風景】

東近江市蒲生地区 マックスダンス（初級）の取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス初級		平均スタッフ数	1 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	4 人
年間開催日数	11 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・ダンスの基礎的なステップを中心に練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
- ・地域の行事やイベントに参加し発表している。

■ 特徴的な活動

- ・マックスダンスでは、初級・中級・上級のクラスを設けており、子どものレベルに合った教室が選択できるように工夫している。
- ・初めて取り組む子どもも多く、楽しく活動することに重点を置いている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・ダンスクラブを始めるにあたり近隣市町で活躍されている現指導者の情報を集めた事が、本教室の講師依頼につながっている。
- ・現指導者は他でもダンスを教えておられる関係上、日程の調整が難しいが、それぞれの教室の事情を理解していただき、活動時間をうまく調整していただきながら進めている。
- ・平成 29 年度は、初級・中級・上級の指導を一人の方をお願いしているため、活動時間の調整などが難しいが、子どもたち一人ひとりのレベルに応じた成長の過程を見ていただき、指導いただけることは子どもたちにとって有意義な活動となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気大切にしている。楽しい雰囲気をつくることを通じて、初心者の子どもの意欲が継続し、高まるように工夫している。
- ・地区や市の大会にも出場することで、子どもたちの発表に対する意欲が高まるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけ、子どもたちが見通しを持って活動できるようにしている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。
- ・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。

■ 事業実施上の課題

- ・練習時間が短いため全体動きを合せるのが難しいことがある。
- ・練習部屋が狭く全体練習の感覚がつかみにくい。

■ その他

子どもたちが、中級クラスへステップアップできるように、現状に満足せず、少しずつレベルアップできるよう、指導内容や方法を常に探求している。



【文化祭での発表】

東近江市蒲生地区 マックスダンス（中級）の取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス中級		平均スタッフ数	1 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	7 人
年間開催日数	11 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている。

■ 特徴的な活動

- ・大会に向けて目標を持ちながら練習している。
- ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- ・地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・ダンスクラブを始めるにあたり近隣市町で活躍されている現指導者の情報を集めた事が、本教室の講師依頼につながっている。
- ・現指導者は他でもダンスを教えておられる関係上、日程の調整が難しいが、それぞれの教室の事情を理解していただき、活動時間をうまく調整していただきながら進めている。
- ・平成 29 年度は、初級・中級・上級の指導を一人の方をお願いしているため、活動時間の調整などが難しいが、子どもたち一人ひとりのレベルに応じた成長の過程を見ていただき、指導いただけることは子どもたちにとって有意義な活動となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・ダンスの技能もさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等、楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持ち、子どもたちがメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・初級クラスでの経験や積重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組の姿勢が見られた。

■ 事業実施上の課題

子どもたちの目標に向かう思いに応えていきたいが、ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。

■ その他

子どもたちが、上級クラスへステップアップできるように、現状に満足せず、少しずつレベルアップできるよう、指導内容や方法を常に探求している。



【文化祭での発表】

東近江市蒲生地区 マックスダンス（上級）の取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス上級		平均スタッフ数	1 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	7 人
年間開催日数	11 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を中心に行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている。

■ 特徴的な活動

- ・大会に向けて目標を持って練習することができている。
- ・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- ・地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・ダンスクラブを始めるにあたり、近隣市町で活躍されている現指導者の情報を集め、依頼。現在に至る。
- ・現指導者は他でもダンスを教えておられる関係上、日程の調整が難しいが、それぞれの教室の事情を理解していただき、活動時間をうまく調整していただきながら進めている。
- ・平成 29 年度は、初級・中級・上級の指導を一人の方をお願いしているため、活動時間の調整などが難しいが、子どもたち一人ひとりのレベルに応じた成長の過程を見ていただき、指導いただけることは子どもたちにとって有意義な活動となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・ダンスの技能もさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等、楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちがメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・今までの経験や積重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会への出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組の姿勢が見られた。

■ 事業実施上の課題

子どもたちの目標に向かう思いに応えていきたいが、ダンスのレベルが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しいところである。



【文化祭での発表】

東近江市蒲生地区 囲碁・将棋クラブの取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ 囲碁・将棋クラブ		平均スタッフ数	1 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	6 人
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・ 囲碁や将棋に親しむことを目的とし、小中学生を対象とした初心者向けの囲碁・将棋教室を実施している。
- ・ 初心者でも取り組みやすい囲碁・将棋の基礎基本を学ぶことを中心に活動している。
- ・ 3月にはトーナメント大会を行い、クラブ員の学習の成果を確認している。

■ 特徴的な活動

- ・ 囲碁・将棋を通して、子どもたちにじっくりと考える習慣を身につけることを目的としている。
- ・ 共通の趣味を通じて、世代間の交流を図っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域に住む囲碁・将棋愛好会を指導者として招き、小中学生を対象とした初心者向けの教室を開催している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・ 集中力が持続するように、休憩を入れたり、活動時間があまり長くなったりしないように工夫をしている。
- ・ レベルに応じて指導者対クラブ員、クラブ員同士の対局を行う等、活動に変化を取り入れ、子どもたちの囲碁・将棋に対する意欲が持続するように工夫している。3月にはトーナメント大会を行い学習の成果を確かめられるようにしている。
- ・ 対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・ 囲碁・将棋に、さらに深く興味を持ってくれる子どもが出てきている。
- ・ クラブ員が友だちを誘って一緒に参加するなど、その面白さを他の人にも広げている。
- ・ 囲碁・将棋を通じて子どもたちが落ち着いて考える様子が見られるようになった。
- ・ 活動や対局を通じて世代間を越えて、楽しむ様子が感じられた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 活動時間（2時間程度）の間、子どもたちに集中してもらうことは、なかなか難しい。
- ・ 活動に変化をつけ、集中を持続させる手立てが必要である。
- ・ 囲碁に興味を持つ子どもが少ないため、さらに囲碁のおもしろさや楽しさを啓発する必要がある。



【活動の様子】

東近江市蒲生地区 蒲生野太鼓わらべ組の取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組		平均スタッフ数	4 人
主な活動場所 蒲生コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	43 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域交流)			

■ 活動の概要

- ・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・地域の行事やイベント等に参加し、発表している。

■ 特徴的な活動

- ・通常の練習は、初心者と経験者で時間を分けて練習している。
- ・マックスクラブ発表会の他に、地域での様々なイベントや行事に積極的に参加して演奏活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

わらべ組を卒業した高校生や大学生、社会人などに指導者として協力してもらっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・習熟度別に、初心者向けと中級者向けに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・太鼓の数が限られているため、初級者（低学年）の練習の後、中級者の練習をしている。
- ・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。
- ・積極的に発表の機会を設け、クラブ員として活動に対する意欲が高まるようにしている。

■ 事業の成果

- ・年度初め（5月）から練習を始めた子どもたちが、3月の発表会では一人でたたけるようになることが大きな成果である。
- ・当和太鼓教室は、継続的に取り組む子どもがたいへん多い。
- ・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■ 事業実施上の課題

- ・新規の指導者の育成が必要である。
- ・和太鼓は、数年続けないと一人前にならないこともあり、継続的に活動する子どもが多い。そのため、欠員がなく新規の子どもたちの募集が少なくなり、希望者の意向に添えないことがある。



【あかねっ子フェスタでの発表の様子】

東近江市蒲生地区 わくわくチャレンジ隊の取組

東近江市蒲生地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 蒲生地区を主とした滋賀県内のフィールド		子どもの平均参加人数	14 人
年間開催日数	9日	開始年度	平成29年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・館外活動が基本であり、子どもの五感を使った活動を心がけている。
- ・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。

■ 特徴的な活動

- ・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。
- ・活動内容により、クラブ員の保護者や兄弟も参加されることもある。

(具体的な活動内容)

- ・日野川たんけん 上流編・下流編
- ・ホテル観賞会
- ・カヌー体験
- ・かいどり大作戦
- ・ふるさと発見 蒲生を歩こう
- ・デイキャンプ体験 バームクーヘンをつくろう
- ・冬の野鳥観察 など

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・地域に活動拠点を置く「蒲生野考現倶楽部」が主となって指導していただいている。
- ・活動内容に応じて地域の方に協力を依頼している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

日野川の流域水質調査や生きもの調べなど、継続して観察したり、比較して違いを認識する活動を取り入れたりして、クラブ員の興味を引き付けるようにしている。

■ 事業の成果

- ・高学年の子どもたちは、活動の中で低学年の子どもたちに気配りをすることができるようになった。
- ・自分たちの住む東近江地域への理解を深めることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・参加するクラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしていても達成までに時間の差ができてしまう。
- ・手ぶらになった参加者は、勝手に遊びだしてしまうため、活動内容の充実が必要である。



【かいどり大作戦】

東近江市玉緒地区におけるキッズダンス（初級）の取組

東近江市玉緒地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 キッズダンス教室（初級） (対象学校名：玉緒小学校・玉園中学校)		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 玉緒小学校 体育館		子どもの平均参加人数	20 人
年間開催日数	40 日	開始年度	平成 29 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			

■ 活動の概要

- ・初級クラスでは、手の動き、足のステップなど、自分自身のダンス技術の向上を目指している。
- ・ヒップホップダンスをとおして、リズム感を養い、体力の向上を図っている。また、子どもたち自身の楽しみが増え、仲間（友達）との連携が培われている。
- ・小学校低学年は初級コース、小学校高学年および中学生は中級コースで練習し、子どもたちの年齢別の体力に合ったレッスンを実践している。また、ダンスに興味を持った幼稚園児が参加した場合は、初級入門コースを設けてレッスンを3部門に分けて行うこともある。

■ 特徴的な活動

- ・玉緒地区の夏祭りのセレモニーに参加し、普段の練習の成果を発表した。
- ・子どもたちがTシャツのデザインを考え、お揃いのTシャツを揃えた。お揃いのTシャツを着て踊ることにより、子どもたちの一体感が生まれ、観ていただいている方に迫力が伝わる。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の方の紹介により、専門的な技能を持つ先生に指導を依頼し、子どもたちのダンス技能向上に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

ダンス教室に参加している子どもたちの保護者を中心に、スタッフの人数を増やして組織的な運営を目指していきたい。

■ 事業の成果

- ・情報発信を行い、イベント等で子どもたちのダンス発表を多くの方に見ていただいたことで、参加人数が増えてきている。
- ・毎回、ほとんど欠席者がなく、子どもたちは熱心に練習に励んでいる。
- ・将来もダンスを続けたいという子どもたちも多く、夢に向かう意識も高い。

■ 事業実施上の課題

兄弟が別々のレッスンに参加する場合は、2レッスンとなり、保護者等の待ち時間が長くなってしまいが、子どもたちのダンスを熱心に見学していただいている。

■ その他

- ・子どもたちは、発表を経験することでさらに技能が上達していくため、今後、玉緒地区の夏祭りや文化祭等、子どもたちが練習の成果を発表する機会をさらに増やしていきたい。
- ・小学校の体育館を活動場所にすることにより、地域と学校とのつながりが強まった感があり、今後の協働的な活動が期待される。



【練習風景 その1】



【練習風景 その2】

東近江市玉緒地区におけるキッズダンス（中級）の取組

東近江市玉緒地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 キッズダンス教室（中級） (対象学校名：玉緒小学校・玉園中学校)		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 玉緒小学校、体育館		子どもの平均参加人数	10 人
年間開催日数	40 日	開始年度	平成 29 年度
活動内容 <input type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			

■ 活動の概要

- ・初級コースと比べて踊る曲のテンポが速くなり、技能の習得も難しくなるが、リズム感を養うことを目標に取り組んでいる。
- ・初級コースで身に着けた技能を基本に、さらに高い目標に向かって取り組んでいる。
- ・中級コースでは、一つ一つの動きがめりはりのあるものとなり、まわりの動きを見ながら踊れるようになったり、先生の指示を確認したりしながら踊ることができるようになってくる。

■ 特徴的な活動

地域の夏祭りや文化祭に参加し、地元の子どもたちのアトラクションとしてイベントに一役買うことができた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の方の紹介により、専門的な技能を持つ先生に指導を依頼し、子どもたちのダンス技能向上に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

ダンス教室に参加している子どもたちの保護者を中心に、スタッフの人数を増やして組織的な運営を目指していきたい。

■ 事業の成果

- ・ダンスと出会い、子どもたちの趣味が一つ増えるとともに、達成感を味わうことができた。
- ・子どもたちだけでなく、それを見守る家族等にも楽しみが増えた。
- ・レッスンで学んだ技能を家でも繰り返し練習する子どもたちが多く、同じ練習の繰り返しでも飽きることなく取り組んでいる。また、踊りが難しく、うまくいかない所を重点的に練習する子どもたちも多い。
- ・一つ一つの技能を積み重ねることで、確実に技能が向上してきている。

■ 事業実施上の課題

子どもたちが、上級コースでも活躍できるように練習プログラムを組み立て、さらに技術を高めていきたい。

■ その他

- ・情報提供を積極的に行い、さらに活動をPRしていく。
- ・今後は、発表会等への積極的な参加だけでなく、他地区との交流や様々な施設訪問等、活動内容を増やし、子どもたちの練習の成果を発表する場を広げていきたい。
- ・小学校の体育館を活動場所にすることにより、地域と学校とのつながりが強まった感があり、今後の協働的な活動が期待される。



【練習風景 その1】



【練習風景 その2】

東近江市五個荘地区 OH!茶チャチャの取組

東近江市五個荘地区		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 『OH!茶チャチャ』クラブ (対象学校名:五個荘小学校)		平均スタッフ数	7 人
主な活動場所 てんびんの里文化学習センター 4階和室		子どもの平均参加人数	7 人
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 29 年度
活動内容 □補習的学習 □スポーツ ■文化・芸術 □科学・実験 ■体験活動 □郷土学習 ■その他(地域交流)			

■ 活動の概要

第1土曜日を原則お稽古日として、小学校1年生～6年生を対象に、地域の表千家流の茶道サークルが指導している。

- ・作法(座り方・お辞儀の仕方・歩き方・立ち方等)
- ・点て方・お茶やお菓子の頂き方
- ・亭主(お茶やお菓子を運ぶ)やお客になる
- ・茶道具の名前や扱い方・茶花を生ける
- ・袱紗の扱い方
- ・割り稽古

■ 特徴的な活動

通常は学習センター和室でお稽古をしているが、地域のイベントにも積極的に参加して活動している。

- ・9月「ぶらっとごかしょう まち歩き」
- ・3月「商家に伝わるひな人形めぐり 貝合わせ遊びお茶会」お茶席を設けて、お稽古の発表の場として参加。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・日本文化の継承と地域の子どもたちとのふれあい及び育成を目的とした活動であるということを十分理解してもらう。
- ・地域の表千家の茶道サークルの方々が前向きにやりがいを感じる活動となるように環境を整えるように心がけた。
- ・今後の地域活性化の礎とするために、子どもたちが地域のイベントに積極的に参加および協力し、地域に親しみながら、人と人のふれあいをとおした活動となるように心がけた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・毎年継続して小学生を募集し、さらに参加人数を増やしていく。将来的には、対象を広げて中学生にも声をかけていきたい。
- ・サークルのメンバーも活動が継続できるよう、本教室において無理のないお稽古日を設定していく。

■ 事業の成果

- ・地域のイベントに参加して活動することにより「子どものおもてなし」としてお客様に喜ばれた。
- ・子どもたちが作法を学ぶことで、日本文化の良さを少しずつ理解できている。

■ 事業実施上の課題

- ・付き添いで来られている保護者への理解と指導
会場に来られて見学されている保護者も、子どもたちと一緒に活動してもらうよう参加を促したが、なかなか難しい現状である。今後、親子で活動するためにはどうしていけばよいかを考えていく必要がある。
- ・活動している子どもたちにとって、さらに良い環境を築き上げていきたい。



【イベントでのおもてなし】



【お茶席のお花いけ】

竜王町における土曜日の教育支援活動の取組

■目指す姿

「キッズクラブ」において、町内の小学校に通う子どもたちが、様々な体験教室での活動を経験することにより、異年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深め、さらに、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■本年度の活動

- ・ 5月13日（土） 開講式の開催
運営委員会の開催（活動内容の確認・親子で参加できる活動の検討）
- ・ 3月10日（土） 公民館フェスタの開催
閉講式の開催
運営委員会の開催（今年度の反省・次年度に向けての課題と対策の検討）

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・ 子どもたちが様々な遊びや文化芸術の体験活動、また、異年齢の子ども同士の交流を通して、楽しく生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。

○課題

- ・ 学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなり、複数のクラブを受講している子どももあり、日程設定に工夫が必要である。
- ・ クラブによって、受講者に差があり、受講者が少なく開講できなかったクラブも出ている。子どもの好むクラブをいかに把握するかが課題である。
- ・ スポーツ少年団等に参加している子どもも多く、開催日が重複することもあり、参加者が限られてしまう。

■地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

○成果

- ・ 地元の団体や施設、有資格者、生業とされている方、元教師、支援員のご指導いただくことにより、より深く、より分かり易く学ぶことができた。

○課題

- ・ 製作活動の場合には材料費等の費用が発生するものがあり、その費用の負担をどうするのか。
- ・ ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

見事なバチさばきで、心に響く演奏を！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王キッズクラブ 和太鼓クラブ (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	1 人	
主な活動場所 竜王町公民館 他	子どもの平均参加人数	16 人	
年間開催日数	23 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

町イベント等に積極的に参加し演奏することにより、何事にも挑戦する勇気や自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

和太鼓の演奏や指導を生業とされている方にご指導をいただくことにより、より分かりやすく学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

同じ講師のもと、小学校3年生から6年生までの小学生を対象として、継続した取組ができていますので、一度クラブに入った子どもは6年生まで継続して参加することが多い。

■ 事業の成果

- ・和太鼓の演奏や指導を生業とされている方にご指導をいただくことにより、無理なく技能の向上が図れたとともに何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
- ・町イベント等に定期的に出演することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
- ・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・年間を通して開催回数も多く、学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため日程設定に工夫が必要である。
- ・和太鼓は団体での演奏であり、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習内容を変更しなければならないことがある。



【キッズフェスティバル】



【竜王町文化祭】

基礎から学んで、めざせ達人！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王キッズクラブ 書道クラブ (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	2 人	
主な活動場所 竜王町公民館	子どもの平均参加人数	18 人	
年間開催日数	22 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、書道クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

- ・硬筆・毛筆の基礎から学ぶことにより、初心者でも気軽に参加できる。
- ・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信となり、また、何事にも挑戦する力を養う。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

県の展覧会等でも受賞経験のある有段者の元町職員に御指導をいただくことにより、連携や情報共有がしやすく、より分かりやすく学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

同じ講師のもと、小学校2年生から6年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取組ができていますので、一度クラブに入った子どもは6年生まで継続して参加することが多い。

■ 事業の成果

- ・技能の向上が図れたとともに、何度も何度も練習をし、教えてもらう継続した取組により、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
- ・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。

■ 事業実施上の課題

年間を通して開催回数も多く、学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため日程設定に工夫が必要である。また、講師の日程調整をすることも難しく、当初予定日での開催が困難となり、開催日の変更も生じている。



【硬筆の練習】



【毛筆の練習】

何事にもチャレンジして、生きる力を身につけよう！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王キッズクラブ チャレンジクラブ (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	3 人	
主な活動場所 竜王町公民館 他	子どもの平均参加人数	16 人	
年間開催日数	9 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、チャレンジクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

竜王町のさくらんぼ園で採ったさくらんぼを使ったスイーツ作り、琵琶湖でのカヌー体験、町公民館での防災キャンプ、町内歴史ハイキング、スキー教室等を通して、自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養う。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の農園や道の駅、消防署員や消防団員、学校園支援地域本部のボランティア、元教師の御協力と御指導をいただくことにより、活動内容に応じて、より分かりやすく学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

クラブの卒業生である中学生・高校生にボランティアをお願いし、小学生の身近な存在として、講師や指導や職員の補助をお願いし、リーダー養成につなげる。

■ 事業の成果

- ・スイーツ作り、カヌー体験、防災キャンプ、歴史ハイキング、スキー教室等を通して、何事にも興味を持ち、挑戦する力を養うことができた。
- ・地元食材を使ったスイーツ作り、町公民館での防災キャンプ、歴史ハイキングを通して、郷土に興味をもってもらうことができた。
- ・異年齢の子どもが班単位で協力して活動を行うことで、班での自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため日程設定に工夫が必要である。
- ・野外活動が中心となるため安全管理を十分にする必要があり、内容によっては活動に制限を設けなくてはならないことがある。
- ・宿泊体験等は、内容によっては事前研修の必要があり、講師以外にも指導員や協力者をお願いする必要もあり、準備が大変である。
- ・カヌー体験、防災キャンプ、スキー教室等では、受講料以外に体験活動費用を徴収しなければならず、保護者の負担が増大する。



【カヌー体験】



【防災キャンプ・放水体験】

家族みんなで、めざせ理科博士！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王キッズクラブ サイエンスクラブ (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	3 人	
主な活動場所 竜王町公民館 他	子どもの平均参加人数	16 人	
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input checked="" type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、サイエンスクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

家族参加も可能で、天体観望（初夏・夏・冬）、自然観察、親子野鳥観察、科学工作など、毎回、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師に御指導をいただくことにより、より分かりやすく学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・小学校1年生から6年生までの小学生を対象に家族参加も可能としており、上の子どもだけでなく下の子どもが小学生になった際に、再度クラブに入る子ども（家族）がおり、継続した取組ができています。

■ 事業の成果

- ・天体観望（初夏・夏・冬）、自然観察、親子野鳥観察、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、理科離れがさげられる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
- ・家族参加も可能なため、知識の向上はもとより、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため、日程設定に工夫が必要である。
- ・天体観望（初夏・夏・冬）、自然観察、親子野鳥観察、科学工作など、毎回内容が異なるために、欠席するとその日の学習ができなくなる。



【天体観望】



【自然観察】

地元で採れた食材を使って、季節を感じ、おいしくいただく！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王キッズクラブ クッキングクラブ (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	4 人	
主な活動場所 竜王町公民館 ・ 竜王町農村女性の家	子どもの平均参加人数	12 人	
年間開催日数	7 日	開始年度	平成 27 年度
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、クッキングクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

- ・家族参加も可能で、子どもが家庭でも1人で調理できるメニューを料理の基礎から学ぶ。
- ・子どもでも手軽にできるメニューではあるが、ご馳走に見えるようなメニューを加えている。
- ・季節を感じる食材、メニューを加えている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の道の駅を中心に地元野菜の加工品やパン等の販売をされている女性団体に講師を依頼している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

地元でとれた野菜やおすそわけ品等の食材を有効活用し、安価で、豊富な品数がそろえられるように努力するとともに、地元の野菜等の食材の良さに気づき、郷土に愛着をもってもらおう。

■ 事業の成果

- ・子どもたちから家でも作ったという声を多く聞き、クラブ活動の場だけでなく家庭での実践に結びついている。
- ・異年齢の子どもが班単位で協力して料理を作ることで、技能の向上はもとより、班での自分の役割をしっかりと把握し、完成させることで責任感や協調性を養うことができた。
- ・家族参加も可能なため、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため日程設定に工夫が必要である。
- ・講師の方には、子どもが家庭でも1人で調理でき、安価で、栄養のバランスが整ったメニューを毎回考えていただくのに苦労いただいている。
- ・今年度から前年度までとは異なる講師の方に依頼することとなった。事業を継続的に安定して持続させていくためには、講師にメニューを考えることから、食材の買い出し、当日の指導のすべてを任せるだけでなく、事務局の負担可能な範囲で補助することが必要である。



【ミニピザづくり】



【パフェづくり】

素敵なハーモニーを奏でよう！

竜王町	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人	
活動名 竜王ユースプラス (吹奏楽教室) (対象学校名 : 竜王小学校・竜王西小学校)	平均スタッフ数	3 人	
主な活動場所 竜王町公民館 他	子どもの平均参加人数	17 人	
年間開催日数	50 日	開始年度	平成 26 年度
活動内容	<input type="checkbox"/> 補習的学習 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 科学・実験 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽教室をとおり、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動

県の大会や町イベント等に積極的に参加し演奏することにより、何事にも挑戦する勇気や自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方に御指導をいただくことにより、より分かりやすく、学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・開催日を毎週土曜日の夜間にするにより、地域行事等と重複することが少なく開講することができている。
- ・3名の講師の方に御指導をいただくことにより、分からないところはじっくりと、技能にあった練習をすることができる。また、講師不在により開催を取りやめることがなくなる。
- ・卒業生のほとんどが中学校の吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。また、中学校の吹奏楽部との良好な関係が築けているため、開催日に練習のお手伝いに来てくれることや中学校吹奏楽部の定期演奏会での合同演奏にもつながっている。

■ 事業の成果

- ・地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方に御指導をいただくことにより、無理なく技能の向上が図れたとともに何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
- ・県の大会や町イベント等に出演することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
- ・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・受講生は担当楽器が決まっており、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習に支障が出ることがある。そのため、日程設定に工夫が必要である。
- ・開催時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。



【ジュニアミュージックフェスティバル】



【竜王町文化祭】